

のである。各階毎の「鍵のオバさん」の力が絶対だが、ルーム・ライトのショートもおぼさんの心遣いひとつですぐに修理可能なことを発見した。第13回国際歴史学会には、3人は申込まなかったので、レーニン廟を始め、 Gum (国営百貨店)・クレムリン(6つの寺院あり)・レーニン中央博物館・マルクス-エンゲルス記念博物館・国民経済博覧会(常設)などを廻ってみた。2~3日だと、欲張る方が所詮無理なのであるが、レーニンを、ひいてはマルクスやエンゲルスを正しく理解させる為に、極力学問的な努力を重ねていることは明らかであろう。「レーニン全集」にしても、各国版を蒐集しているが、わが日本版も、その時点では、35巻迄しか展示されていなかった。

8月25日、モスクワ時間で午後4時すぎ、なつかしいロシアホテルを出発、シメレチェボ空港へ向って、ゴーリーキー大通りをとばす。可成り古い小型タクシーだが、飛ばすこと飛ばすこと。5時すぎ無事空港着。チェック・イン迄はよかったが、(レニングラードで入国時申告した)「Declaration」の貴金属所持らんを「None」と書かなかった許りに手間どる。どうも、社会主義国は出入が面倒極まりない。やっと出国手続をすませ、税関をパスして、ロンドンへ向う途中降りたことのある待合室へ出たら、パリ発エール・フランス機が1時間おけるとの由。貰ったサービス券でビールを飲んで待つしかない。座席の指定なしの国際線は、何のことはない日本人のご老人で満員だった。日本語のなつかしいこと、7時すぎ(日本時間午前1時ごろ)離陸、すぐ暗くなり月が出る。そのうち、機内の通路の画面に「ジャン・コクトー」主演のフランス映画が上演される。みるとはなしにみていると、もう夜明けである。もう日本の上空か、と思いつつ私は眠り入ってしまった。(1972・8・1成稿)

<研究業績>

前回からの所員の研究業績は次のとおりです。

[著書]

- 宮崎 犀一 「経済原論の方法(下)」(未来社 1972. 2)
山田 克己 「価格理論」〔経済学全集8〕(築摩書房 1972. 2)

[論文]

- 望月 清司 「資本家的生産に先行する諸形態(上)」〔マルクス・コンメンタール 5の1〕(現代の理論 96)
高橋 長太郎 「混合経済の機能」(国民経済雑誌 124-5)
三輪 芳郎・他 「戦後日本技術の再評価(7) - ソニー」(経済評論 21-2)

- 望月清司 「資本家的生産に先行する諸形態(下)」(現代の理論 97)
- 森田桐郎 「『要綱』貨弊章における、いわゆる人類史の3段階論について(上)」
(現代の理論 97)
- 三輪芳郎・他 「戦後日本技術の再評価」(経済評論 21-3)
- 玉城哲 「世界経済の転換と農政の課題」(経済評論 21-3)
- 正村公宏 「経済体制論の方法と課題 [付・付論]」(経済評論 21-4)
- 森田桐郎 「低開発経済分析の理論的課題」(経済評論 21-4)
- 内田義彦・宮崎犀一 「経済学50年と現代<対談>」エコノミスト 50-14)
- 正村公宏 「日本経済の現局面と春闘」(労働問題 168)
- 三輪芳郎・他 「戦後日本技術の再評価(9) — 日本ミネチュアペアリング」(経済
評論 21-4)
- 栗木安延 「戦後経済と国家独占資本主義」(太平洋戦争史 第3巻所収)
- 正村公宏 「日本経済の現状と課題」(平和経済 128号)
- 玉城哲 「国有化は土地問題の解決になるか」(エコノミスト 50-18)
- 池田博行 「シベリアの住民の生活諸条件について」(アジア経済 13-3)
- 志村嘉一 「金融の構造的特質と日本経済」(経済評論 21-5)
- 志村嘉一 「転換期を迎えた企業金融」(東洋経済 3668)
- 池田博行 「帝政ロシアの交通政策と財務問題」(専修大学社会科学年報第6号
所収)
- 木崎喜代治 「財政論史におけるモンテスキュー」(同上)
- 山本満 「未完の同盟とそのジレンマ — 戦後日米関係の一考察 —」(同上)
- 梅井義雄 「満州事変と三井財閥 — 山本条太郎・森恪との関係を中心に —」
(同上)
- 福島新吾 「警察と秩序 — 問題意識再考の「旅」 —」(同上)
- 加藤幸三郎 「本邦綿糸紡績業研究の最近の動向をめぐって — 長岡・高村両氏の新
著によせて —」(同上)
- 蔵下勝行 「江沢譲爾著『近代経済学の論理』」(同上)
- 木崎喜代治 「ル・メルシェ・ド・ラ・リヴィエールにおける国家と租税」(専修経
済学論集 12号 所収)
- 泉武夫 「日本紡績資本の中国市場進出に関する一考察 — 1920年前後のいわゆ

る「在華紡」について一」（同上）

- 佐々木 享 「渡辺渡と佐藤鋤山」（専修自然科学紀要 第5号 所収）
- 西川 善介 「入会権近代化法をめぐるの入会権学説の混乱」（専修大学人文科学研究月報 第25号 所収）
- 殿村 晋一 「戦前期中小商業問題と商工会議所」（専修商学論集 第12号 所収）
- 森下 澄男 「専修学校の経済学講義録について」（同上）
- 梶井 義雄 「三井物産会社史の計数的概観」（専修経営学論集 第10号 所収）
- 宮田 三郎 「裁量の可否」（専修法学論集 第12号 所収）

〔研究報告〕

- 栗木 安延 「戦後期における日本の労働運動」（歴史学研究会大会総会現代史部会 5月）

〔所報〕

- 第1回定例研究会〔1972年4月25日（火）、午後2時30分より、生田図書館5階集会室〕
中村秀一郎所員「ベンチャー・キャピタリズムの展望」
玉垣良典所員「ヨーロッパをめぐる」
- 第1回社研事務局会議〔4月25日（火）、午後6時より、全上5階集会室〕
議題： ①昭和46年度決算報告案について ②昭和47年度社研事務局について ③「月報」編集状況について ④新住所員について ⑤「産構研」について
- 第1回「産構研」センター会議〔5月16日（火）、午後5時半より、5階集会室〕
議題： ①47年度科学研究費補助会交付申請書提出について ②本年度研究活動計画について ③その他
- 第2回帝国主義「近代化」研究会〔5月22日（月）、午後6時より、市ヶ谷私学会館〕
①本年度研究会の打合せならびに成果刊行について
- 第2回事務局（全体）会議〔5月23日（火）、午後3時より、5階集会室〕
議題： ①報告（本年度予算案内示、個人・共同研究費募集、定例総会準備、「年報」発送など）②事務局体制について
なお研究会は、福島新吾所員に代わって、栗木安延所員、それに新しく平川東亜所員の担当とした。なお、資料係は、宮下誠一郎・吉家清次両所員の担当になった。
③夏季合宿研究会準備について ④その他

- 『社会科学年報』第6号および『専修大学社会科学研究所月報』発送〔5月26日(金), 午前9時30分より午後5時まで, 5階集会室〕

学生アルバイト4名の応援をえて, 事務局長以下数名が, 『年報』第6号と『月報』101~103号を, 全国の研究機関ならびに研究者に発送した。

- 第3回帝国主義研究会〔6月5日(月), 午後6時より, 神田学士会館〕

研究報告: 長幸男所員「日本における自由の形成の問題」

- 第1回運営委員会ならび第3回事務局合同会議〔6月10日(土), 正后~午後2時まで, 生田図書館5階集会室〕

議題: ①昭和46年度決算報告案について ②昭和47年度研究活動計画案ならびに同実行予算案について ③新所員について ④「産構研」について ⑤その他

- 第19回定例所員総会〔6月10日(土), 生田図書館5階集会室, 午後2時半より〕

議題: ①事務局(一般・各部)報告 ②昨年度研究経過報告ならびに決算報告について ③本年度研究計画案ならびに実行予算案について ④特定研究「産構研」について ⑤その他

以上, 慎重審議の上承認されたが, 新たに青木信治(経済学部新任), 土方保(経済学部新任), 黒田彰三(経済学部新任), 麻島昭一(商学部非常勤講師), 大西勝明(商学部), 山田一郎(経営学部), 林基(文学部), 西川善介(文学部)の8名を所員に委嘱することとし, 嶋崎晴哉・森田桐郎両所員をそれぞれ, 所外研究員に, 又坂口洋一氏(東京外語大)を新たに所外研究員に迎えて, 社研の研究活動の一層の充実をはかることとした。

- 第4回事務局会議〔6月20日(火), 経済学部教授会終了後, 5階集会室〕

議題: ①「産構研」の取組みについて ②夏季合宿研究会準備について ③『月報』発送と資料交換について

- 第4回帝国主義研究会〔7月1日(土), 午前11時より, 神田学士館〕

研究報告: 福島新吾所員『明治初期フランス法翻訳と「自由」— 大井憲太郎の場合 —』

<編集後記> 今回は経営学部の斉藤氏の論稿と, 加藤氏の成稿をいたゞくことができました。なお, 加藤氏の論稿(1)は本月報1699に掲載されています。読書の秋, 所員諸氏のなご一層のご協力をお願いする次第です。(T)

神奈川県川崎市多摩区生田4764
専修大学社会科学研究所
電話(044)91-7131(内線63)
(発行者) 江沢 譲 爾